

学習指導要領コードについて

初等中等教育局
学びの先端技術活用推進室



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

学習指導要領のコード化の必要性

現状

- 令和元年度から推進されたGIGAスクール構想により、児童生徒の1人1台端末環境が整備されており、学習履歴をデジタルで蓄積することが容易になっている。
- 一方、教材等には各社ごとに学習内容に独自のコードを付番して活用しているが、各学校・児童生徒は教科書・教材や学習ツールごとにコードが異なっているためデータを当該サービス内でしか活用できず、学校・個人ごとに横串を通して体系的に分析を行うなどの利活用や展開ができない状況。



- 今後、ますます利活用が増加することが見込まれる学校・家庭におけるデジタルを活用した学習において、学習系データを横断的・体系的に活用するためには、使用する教材・サービスに関わらず共通のコードを使用することが必要。
- 学習系データをどこまでの粒度で把握するのか等に関しては様々な考え方があるが、まず、全国の学校で共通で用いられており、学校の学習内容の標準として国が示している学習指導要領の内容・単元等に共通のコードを設定（学習指導要領のコード化）することが必要。

文部科学省「新時代の学びを支える先端技術活用方策（最終まとめ）」令和元年6月

学習系データを事業者や使用者に関わらず、横断的・体系的に活用するため、学校の学習内容の標準として国が示している学習指導要領に基づき、内容・単元等の共通コード（学習指導要領のコード化）を設定する。

学習指導要領のコード化の基本的な考え方

①方針

- ・ 将来的な活用も視野に入れ、学習指導要領のできる限り広い対象をコード化する。
(現時点で必ずしも活用の用途が定まっていないものであっても、用途の拡大や技術の進展による分析等が考えられるため。)
- ・ G I G A スクール構想の加速化を受け、できる限り 早期に公表 を行う。

②対象

学校種：全学校種（幼・小・中・高・特別支援学校）、全教科

改訂年度：これまでの全ての学習指導要領が対象。今回、実際にコード化するのは「平成20～21年改訂」及び「平成29～31年改訂」分の学習指導要領とする。

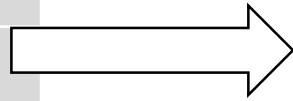
※今回対象分以外のコード化は今後検討。

③コード付与の考え方

- ・ 学習指導要領の 全項目（総則、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間等）をコード付与の対象 とする。（前文のみ除く。）
- ・ コード番号は、学校種、教科、学年等の最小限の分類 だけを行い、冒頭から順に機械的に付与 する。

学習指導要領のコード化のイメージ

総則 教育課程編成の基本的な考え方や、授業時数の取扱い、配慮事項などを規定		
各教科 道徳 特別活動等	①目標	目標
	②各学年の目標及び内容	内容
		内容の取扱い
	③指導計画の作成と内容の取扱い	



学習指導要領テキスト

学習指導要領コード

例

(2) 植物の養分と水の通り道
植物について、その体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
(7) 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。
(イ) 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されること。
イ 植物の体のつくりと働きについて追究する中で、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

(3) 生物と環境
生物と環境について、動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で、生物と環境との関わりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
(7) 生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。
(イ) 生物の間には、食う食われるという関係があること。
(ウ) 人は、環境と関わり、工夫して生活していること。

8260263220000000

8260263221000000

8260263221100000

8260263221200000

8260263222000000

8260263230000000

8260263231000000

8260263231100000

8260263231200000

8260263231300000

学習指導要領の全項目が対象

学校種、教科、学年等の分類を行い、冒頭から順に機械的にコードを付与

学習指導要領のコード付与の考え方

学習指導要領の冒頭から順番に16桁のコードを割り振る。
 その際、学校種、教科、学年等の検索が容易となるように桁に一定のルールを設ける。



桁	区分	考え方
第1桁	告示時期	最初の学習指導要領（昭和22年）を「0」とし、全面改訂の時期毎にコードを割り当てる。（平成29～31年改訂は「8」）
第2桁	学校種別	幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の区分で分類。
第3桁	教科	総則及び教科等を規定する。
第4桁	分野・科目・分類	小学校及び中学校の分野、高等学校の科目を規定し、分野単位、科目単位にコードを割り当てる。
第5桁	目標・内容・内容の取扱い（大項目）	各教科等の大項目の「目標」「○○の目標及び内容」「○○の指導計画の作成と内容の取扱い」等にコードを割り当てる。
第6桁	学年・段階	学年及び段階を規定する。
第7桁	目標・内容・内容の取扱い（小項目）	教科及び分野・科目・分類ごとに設定されている「目標」・「内容」・「内容の取扱い」等の区分を規定する。
第8桁～第15桁	細目	冒頭から順に、階層ごとに桁を割り当て、コードを割り振る。
第16桁	一部改正	第1桁で示す各告示時期において行われた一部改正の状態を表す。

学習指導要領コードの付与の具体例

〔 内 容 〕

小学校学習指導要領
理 科

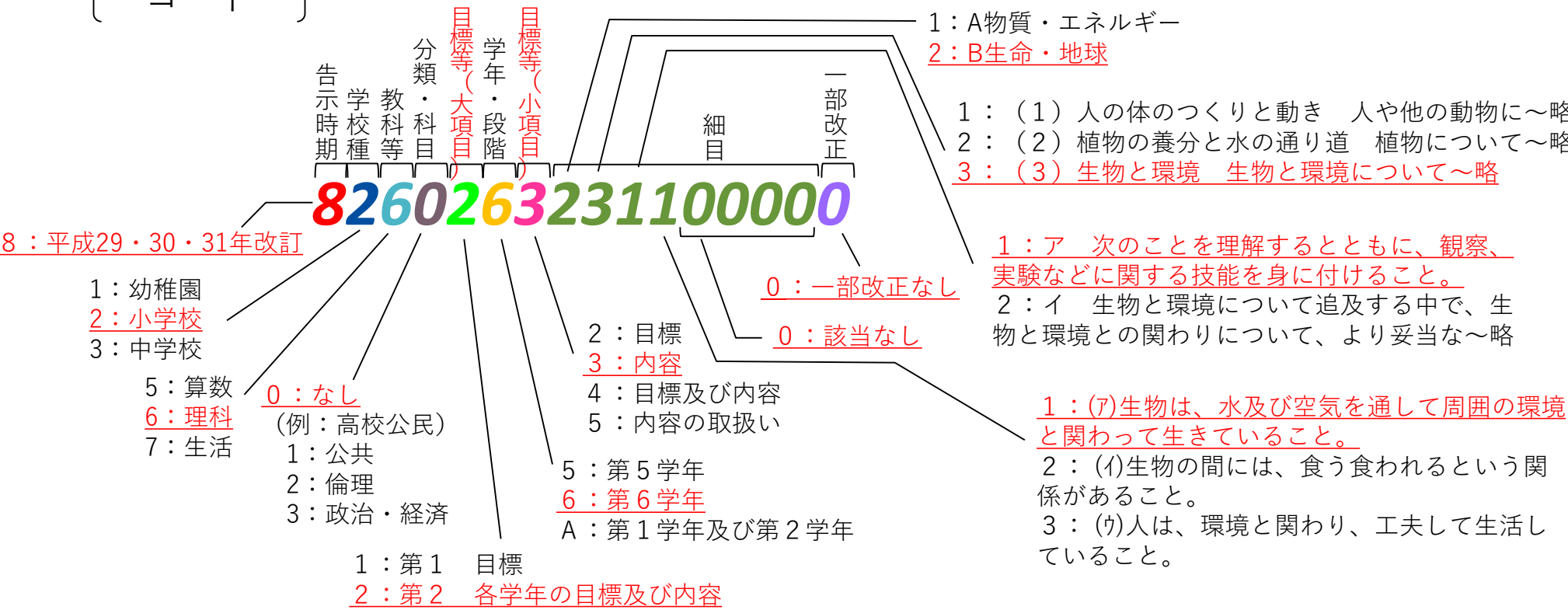
第6学年 B 生命・地球 (3) 生物と環境

生物と環境について、動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で、生物と環境との関わりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること

〔 コード 〕



学習指導要領コードの活用例（桁ごとの検索）



学びの全体像を把握したい

第2桁（学校種別）によりソート
→ 検索した学習指導要領を確認可能

その学年で何を学ぶか

第2桁（学校種別）、第6桁（学年・段階）によりソート
→ その学年で学ぶ内容全体を確認可能

その教科で何を学ぶか

第2桁（学校種別）、第3桁（教科）によりソート ※必要により第4桁（分野・科目・分類）をソートに加える。
→ その教科（分野・科目・分類）で学ぶ内容を確認可能（発達段階に応じて何を学ぶか系統立てて理解可能）

検索の活用イメージの具体例

教科の目標と関連した内容の授業実施を
サポートできる

例1) 体育において、教科自体の目標と各学年の内容の関係を把握したうえで授業を実施したい。

→ 「第3桁（教科：[G]体育），第5桁（目標[1]）」 & 「第3桁（[G]体育），第6桁（学年段階：[D]5,6年生），第7桁（[3]内容）」をソート

例2) 特別な支援を必要とする児童生徒のサポートのため、

特支の指導要領と小学校の指導要領を関連づけて国語のカリキュラムを作成したい。

→ 「第2桁（学校種別：[8]特別支援小学部知的），第3桁（教科：[1]国語）」 & 「第2桁（[2]小学校），第3桁（[1]国語）」をソート

異なる学校種を通貫した
カリキュラム作成をサポートできる

※なお、学習指導要領コードでは知識・技能に関わる部分のコードの分量が多く、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等に関する部分のコードの分量が少なくなるように見えるが、授業等において活用する際には、資質・能力の3つの柱をバランスよく育成するものであることに留意が必要

学習指導要領のコード化により想定される効果

	想定される効果
各学校	学年間・教科等間を見渡したカリキュラム・マネジメントの推進 (環境教育、道徳教育、情報活用能力の育成など)
教育委員会 教育センター	①開発した指導資料、副教材のデータベース化 ②教員研修の講座や研修履歴のデータベース化など
文部科学省 国立教育政策研究所	①国で開発した指導資料や教材のデータベース化 ②全国学力・学習状況調査等の問題や指導案例のデータベース化 など
教員養成大学	①学習指導要領と紐づけた教職科目の設置 ②学習指導要領と紐づけた研究業績の確認など、教職課程認定の簡略化
博物館・図書館・ 公文書館等	博物館等で整備されているデジタルアーカイブと学習指導要領との紐づけ
教科書発行者 教材会社	①発行した教科書や副教材(含:デジタル教材)のデータベース化 ②各種指導の参考書や指導資料のデータベース化 など

学習指導要領コード 活用イメージ①：教科書・教材等の連携

- ▶ 学習指導要領をキーにして、各民間事業者のデジタル教科書・教材ツール・学習ツールや、博物館のデジタルアーカイブを関連付けすることができる。

学習指導要領（小学6年社会）

3 内容の取扱い

(2) 内容の(2)については、次のものを取り扱うものとする。

ウ アの(ア)から(コ)までについては、例えば、次に掲げる人物を取り上げ、人物の働きを通して学習できるよう指導すること。～略～ 織田信長…

学習指導要領コード 822026523200000

学習指導要領コードで自動的に連携

A社
デジタル教科書



822026523200000

B社 学習ツール
(デジタル教材)



822026523200000

C社 学習ツール
(デジタル問題集)



822026523200000

博物館
デジタルアーカイブ



織田信長の半生

822026523200000

① デジタル教科書の該当ページを「ポチッ」

② 関連する教材・問題が自動的に表示

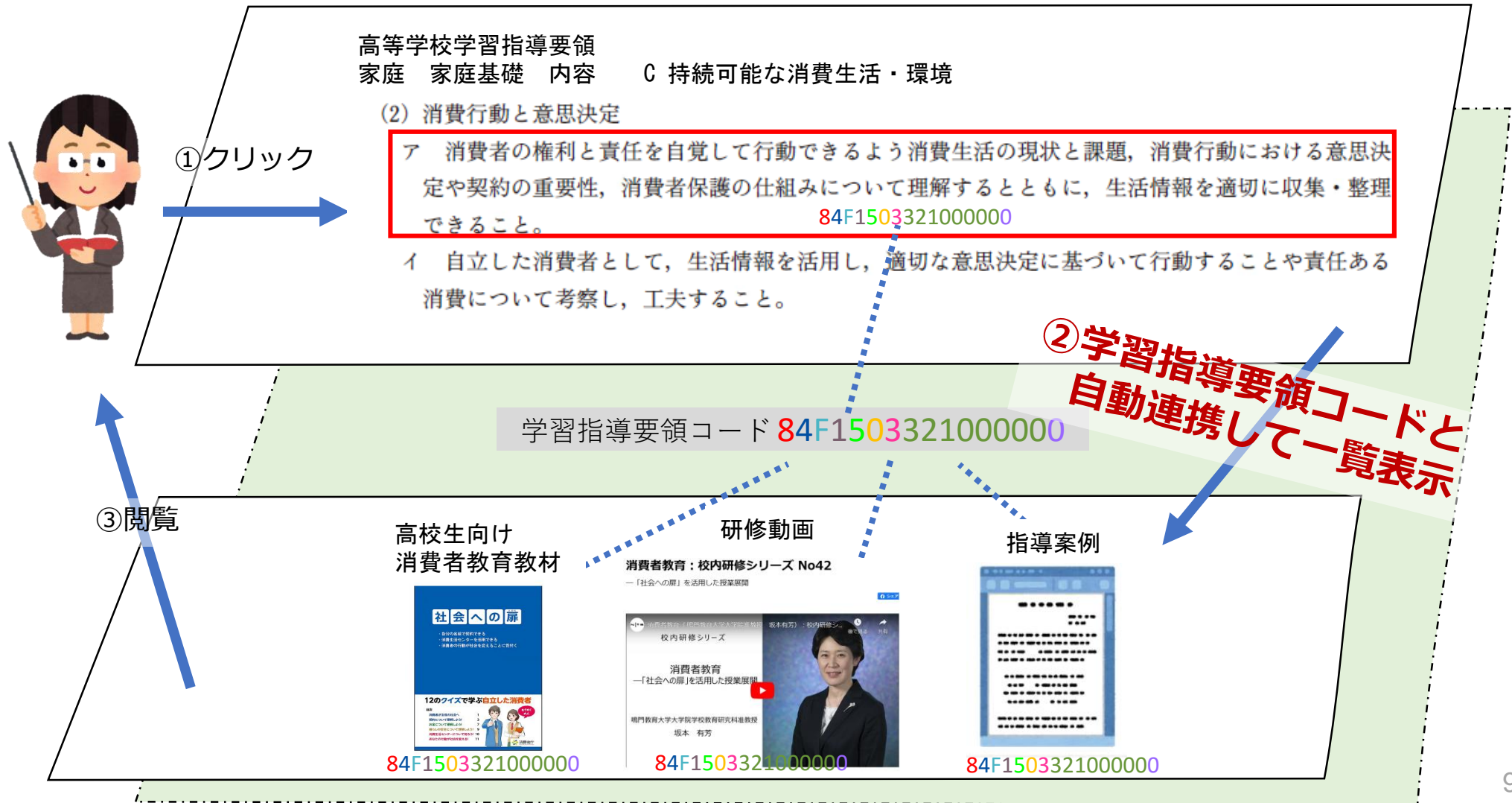
③ 問題解答

④ 解答に関連する資料が表示される

※教材等の各事項には学習指導要領コードが複数付与される場合もあり、常に1対1となるものではない。
(各事項ごとに学習指導要領コードをタグつけて活用するイメージ)

学習指導要領コード 活用イメージ②：教材等のデータベース化

- 国や教育委員会・研修センター等で作成した各種手引き・副教材・研修教材・指導案例等に学習指導要領コードを付与
- 学習指導要領の該当箇所をクリックすれば、関係する資料が一覧的に表示



学習指導要領コードの公表

- ✓ 令和2（2020）年10月16日、文部科学省「教育データ標準」（第1版）として小・中・高の最新版学習指導要領分を公表。そのほかの部分もコード化が完了次第順次公表。
- ✓ G I G Aスクール構想の加速化を受け、できる限り早期に活用できるように、教材事業者等が活用しやすい形（Excel形式,CSV形式）で文科省ホームページにデータを掲載。

（学習指導要領のコードの公表スケジュール）

10月 小・中・高等学校（最新版の学習指導要領分）

11月予定 小・中・高等学校（前回改訂版の学習指導要領分）

12月予定 幼稚園・特別支援学校（最新版と前回改訂版の学習指導要領分）

コード表

学習指導要領テキスト	コード
B 生命・地球	8260233200000000
(1) 身の回りの生物 身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、それらの様子や周辺の環境、成長の過程や体のつくりに着目して、それらと比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	8260233210000000
ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。	8260233211000000
(ア) 生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること、また、周辺の環境と関わって生きていること。	8260233211100000
(イ) 昆虫の育ち方には一定の順序があること、また、成虫の体は頭、胸及び腹からできていること。	8260233211200000
(ロ) 植物の育ち方には一定の順序があること、また、その体は根、茎及び葉からできていること。	8260233211300000
イ 身の回りの生物の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、身の回りの生物と環境との関わり、昆虫や植物の成長のきまりや体のつくりについての問題を思いだし、表現すること。	8260233212000000
(2) 太陽と地球の様子 太陽と地球の様子との関係について、日なたと日陰の様子に着目して、それらと比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	8260233220000000
ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。	8260233221000000
(ア) 日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること。	8260233221100000
(イ) 地球は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地球の暖かさや湿り気の違いがあること。	8260233221200000
イ 日なたと日陰の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、太陽と地球の様子との関係についての問題を思いだし、表現すること。	8260233222000000

【参考資料】

- ・学習指導要領コードの付与ルール
- ・学習指導要領コードの付加情報

学習指導要領の変遷とコード付与の考え方（第1桁：告示時期、第16桁：一部改正）

- ・1桁目：昭和22年刊行の学習指導要領を「0」とし、全面改訂ごとにコードを割り当てる。
- ・16桁目：一部改正を行っていない場合は「0」、一部改正を行った場合は該当箇所のみコードを付番する。
- ・各桁に割り当てるコードは最大で62種類（0～9，A～Z，a～z）

82602632...0

改訂時期	第1桁	改訂時期	第1桁
昭和22年	0	平成元年改訂	5
昭和26年改訂	1	平成10～11年改訂	6
昭和33～35年改訂	2	平成20～21年改訂	7
昭和43～45年改訂	3	平成29～31年改訂	8
昭和52～53年改訂	4		

□ 一部改正が行われた該当箇所に16桁目のコードを付番

(例)

【一部改正前】

(1) ○○○○○○○○○○。

第16桁
X ... 0



【一部改正後】

(1) △△△△△△△△△。

第16桁
X ... 1

(2) ○○○○○○○○○○。

(2) ○○○○○○○○○○。

同じ箇所が再び改正された場合にはコードは「2」となる

改正されていない箇所は新たに付番しない

※平成20～21年告示の平成27年一部改正については、改正コード「1」を割り当てる。

学習指導要領のコード付与の考え方（第2桁：学校種別）

82602632...0

第2桁（学校種+障害種）	引用する学習指導要領等
1：幼稚園	幼稚園教育要領
2：小学校	小学校学習指導要領
3：中学校	中学校学習指導要領
4：高等学校	高等学校学習指導要領
5：特別支援学校幼稚部（障害分類なし）	特別支援学校幼稚部教育要領
6：特別支援学校小学部・中学部（障害分類なし）	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（総則）
7：特別支援学校小学部（視覚・聴覚・肢体・病弱）	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（小学校・中学校に準ずる課程）→自立活動を選択可能 自立活動以外は3桁目以降を小学校学習指導要領と同一コードとする
8：特別支援学校小学部（知的）	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（知的障害の教育課程）
9：特別支援学校中学部（視覚・聴覚・肢体・病弱）	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（小学校・中学校に準ずる課程）→自立活動を選択可能 自立活動以外は3桁目以降を中学校学習指導要領と同一コードとする
A：特別支援学校中学部（知的）	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（知的障害の教育課程）
B：特別支援学校高等部（障害分類なし）	特別支援学校高等部学習指導要領（総則）
C：特別支援学校高等部（視覚・聴覚・肢体・病弱）	特別支援学校高等部学習指導要領（各障害種別の配慮事項）
D：特別支援学校高等部（視覚）	特別支援学校高等部学習指導要領（高等学校に準ずる課程）→自立活動、保健理療、理療、理学療法を 選択可能 それ以外の教科は3桁目以降を高等学校学習指導要領と同一コードとする
E：特別支援学校高等部（聴覚）	特別支援学校高等部学習指導要領（高等学校に準ずる課程）→自立活動、印刷、理容・美容、クリーニング、 歯科技工を選択可能 それ以外の教科は3桁目以降を高等学校学習指導要領と同一コードとする
F：特別支援学校高等部（肢体）	特別支援学校高等部学習指導要領（高等学校に準ずる課程）→自立活動を選択可能 それ以外の教科は3桁目以降を高等学校学習指導要領と同一コードとする
G：特別支援学校高等部（知的）	特別支援学校高等部学習指導要領（知的障害の教育課程）

※特別支援学校において、知的重複障害の場合は、障害種で知的を選択する。

学習指導要領のコード付与の考え方（第3桁：教科）

82602632...0

教科	付与コード	通常・準ずる課程				知的の課程				備
		幼	小	中	高	特幼	特小	特中	特高	
国語	1		○	○	○		○	○	○	
社会	2		○	○				○	○	
地理歴史	3				○					
公民	4				○					
算数／数学	5		○	○	○		○	○	○	
理科	6		○	○	○			○	○	
生活	7		○				○			
音楽	8		○	○			○	○	○	

※総則は「0」とする。

※中学校の「その他特に必要な教科」や高等学校の「学校設定教科」は「z」とする。

教科の接続のコード例

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
生活 〔コード：7〕	社会 〔コード：2〕					社会 〔コード：2〕			地理歴史〔コード：3〕		
									公民〔コード：4〕		
	理科 〔コード：6〕					理科 〔コード：6〕			理科〔コード：6〕		
									理数（専門）〔コード：Z〕		

□ 学校種を問わず、同じ教科は同一の付与コードとなるので、今後の学習の見通しを持つ等の活用が可能

□ 通常級と特支学校（知）との間の転入学にも対応可能

学習指導要領のコード付与の考え方（第4桁：分野・科目・分類）

82602632...0

〔幼稚園〕

学校種別	教科 ※カッコ内は教科コード（第3桁）	領域	コード （第4桁）
幼稚園	ねらい及び内容 (I:小文字エル)	健康	1
		人間関係	2
		環境	3
		言葉	4
		表現	5

- 幼稚園の領域、小学校及び中学校の分野等の領域単位、分野単位にコードを割り当てる
- 分野等の区分がない教科等は、「0」を付与する
(総則の細目や各教科の目標、小中学校等の右表以外の教科が該当)

〔小学校・中学校・特支 小学部・特支 中学部〕

学校種別	教科 ※カッコ内は教科コード（第3桁）	分野・科目	コード （第4桁）
小・中・特支中	外国語 (H)	英語	1
		その他の外国語	2
小・特支小	外国語活動 (L)	英語	1
小・中	特別活動 (N)	学級活動	1
小学校		児童会活動	2
小学校		クラブ活動	3
中学校		生徒会活動	4
小・中		学校行事	5
		中学校	社会的分野
中学校	社会 (2)	歴史的分野	2
		公民的分野	3
		中学校	理科 (6)
中学校	保健体育 (G)	第2分野	2
		体育分野	1
中学校	技術・家庭 (C)	保健分野	2
		技術分野	1
特支・中	職業・家庭 (D)	家庭分野	2
		職業分野	1
		家庭分野	2

学習指導要領のコード付与の考え方（第4桁：分野・科目・分類）

82602632...0

〔高等学校〕

教科 ※カッコ内は教科コード (第3桁)	科目	コード (第4桁)
国語 (1)	現代の国語	1
	言語文化	2
	論理国語	3
	文学国語	4
	国語表現	5
	古典探究	6
数学 (5)	数学Ⅰ	1
	数学Ⅱ	2
	数学Ⅲ	3
	数学A	4
	数学B	5
	数学C	6
工業 (Q)	工業技術基礎	1
	課題研究	2
	実習	3
	・	・
	デザイン史	x

〔特支 高等部〕

教科 ※カッコ内は教科コード (第3桁)	科目	コード (第4桁)
保健理療 (e)	医療と社会	1
	人体の構造と機能	2
	疾病の成り立ちと予防	3
	生活と疾病	4
	基礎保健理療	5
	臨床保健理療	6
	地域保健理療と保健理療経営	7
	保健理療基礎実習	8
	保健理療臨床実習	9
	保健理療情報	A
理療 (f)	課題研究	B
	医療と社会	1
	人体の構造と機能	2
	疾病の成り立ちと予防	3

※分野等の区分がない教科等は「0」を割り当てる。
 （総則の細目や各教科の目標、小中学校等の右表以外の教科が該当）
 ※高等学校における学校設定科目は「z」とする。

8260**2**632...0

分類	コード (第5桁)
目標（大項目）	1
目標及び内容（大項目）	2
指導計画の作成と内容の取扱い（大項目）	3
内容（大項目）	4
各科目	5

- 各教科の大項目の「目標」「○○の目標及び内容」「○○の指導計画の作成と内容の取扱い」等にコードを割り当てる。
- 上記の区分に該当しない項目は、「0」を割り当てる。
- 「○○の目標及び内容」等の項目内の下位項目として「目標」や「内容」等、第5桁で定義する区分の下位の層で同様の項目名称が存在する場合は第7桁のコードを割り当てる。

学習指導要領のコード付与の考え方（第6桁：学年・段階）

82602632...0

		学年コード (第6桁)	教科（カッコ内は教科コード※第3桁）														
			国語 (1)	社会 (2)	算数 (5)	理科 (6)	生活 (7)	音楽 (8)	図画工作 (9)	家庭 (F)	体育 (G)	外国語 (H)	特別の教科 道徳(K)	外国語活動 (L)	総合的な学習 の時間(M)	特別活動 (N)	
小 学 校	全学年適用	0															○
	第1学年	1			○												
	第2学年	2			○												
	第3学年	3		○	○	○											
	第4学年	4		○	○	○											
	第5学年	5		○	○	○											
	第6学年	6		○	○	○											
	第1学年及び第2学年	A	○				○	○	○		○		○				
	第3学年及び第4学年	C	○					○	○		○		○	○			
	第5学年及び第6学年	D	○					○	○	○	○	○	○				
	第3学年～第6学年	L														○	

□ 学年・段階の区分がない教科等は「0」を付与する
(総則の細目や各教科の目標等が該当)

〔例：小学校第4学年〕

- ・学習すべき内容の全体 ⇒ 「0」、「4」及び「C」
- ・算数 ⇒ 「4」
- ・国語 ⇒ 「C」
- ・総合的な学習の時間 ⇒ 「L」

学習指導要領のコード付与の考え方（第6桁：学年・段階）

82602632...0

	学年コード (第6桁)	教科（カッコ内は教科コード※第3桁）																
		国語 (1)	社会 (2)			数学 (5)	理科 (6)		音楽 (8)	美術 (A)	技術・家庭 (C)		保健体育 (G)		外国語 (H)	特別の 道徳 の教科 (K)	総合的 な学習 の時間 (M)	特別 活動 (N)
			地理的 分野	歴史 的分野	公民 的分野		第1 分野	第2 分野			技術 分野	家庭 分野	体育 分野	保健 分野				
中 学 校	全学年適用	0	○	○	○		○	○			○	○		○	○	○	○	○
	第1学年	1	○			○			○	○								
	第2学年	2	○			○												
	第3学年	3	○			○							○					
	第1学年及び第2学年	A											○					
	第2学年及び第3学年	B							○	○								



〔例：中学校第3学年〕

- ・学習すべき内容の全体 ⇒ 「0」、「3」及び「B」
- ・国語 ⇒ 「3」
- ・音楽 ⇒ 「B」
- ・総合的な学習の時間 ⇒ 「0」

□ 学年・段階の区分がない教科等は「0」を付与する
(総則の細目や各教科の目標のほか、上記表のとおり)

学習指導要領のコード付与の考え方（第6桁：学年・段階）

82602632...0

	段階コード (第6桁)	教科 (カッコ内は教科コード※第3桁)											
		国語 (1)	算数 (5)	生活 (7)	音楽 (8)	図画 工作 (9)	体育 (G)	特別 の教科 道徳 (K)	外国 語活動 (L)	総合 的な学 習の 時間 (M)	特別 活動 (N)	自立 活動 (O)	
特支小 (知)	全段階適用	0								○		○	○
	第1段階	a	○	○	○	○	○	○	○				
	第2段階	b	○	○	○	○	○	○	○				
	第3段階	c	○	○	○	○	○	○	○				
第3学年～第6学年		L									○		

〔例：特支小学部（知的）第3段階〕

- ・学習内容の全体 ⇒ 「0」及び「c」
- ・国語 ⇒ 「c」
- ・総合的な学習の時間 ⇒ 「L」

	段階コード (第6桁)	教科 (カッコ内は教科コード※第3桁)													
		国語 (1)	社会 (2)	数学 (5)	理科 (6)	音楽 (8)	美術 (A)	職業 ・家庭 (D)	保健 体育 (G)	外国 語 (H)	特別 の教科 道徳 (K)	総合 的な学 習の 時間 (M)	特別 活動 (M)	自立 活動 (O)	
特支中 (知)	全段階適用	0										○	○	○	○
	第1段階	a	○	○	○	○	○	○	○	○					
	第2段階	b	○	○	○	○	○	○	○	○					

〔例：特支中学部（知的）第2段階〕

- ・学習内容の全体 ⇒ 「0」及び「b」
- ・数学 ⇒ 「b」
- ・総合的な学習の時間 ⇒ 「0」

□ 学年・段階の区分がない教科等は「0」を付与する
(総則の細目及各教科の目標のほか、上記表のとおり)

※特別支援学校（知的）は障害の程度・発達の段階によって、学習指導要領の内容が変わるため「学年」ではなく「段階」で整理

826026**3**2...0

分類	コード (第7桁)
ねらい	1
目標	2
内容	3
目標及び内容	4
内容の取扱い	5
指導計画の作成と内容の取扱い	6
目標及び内容の取扱い	7

- 教科及び分野・科目・分類ごとに設定されている「目標」「内容」「内容の取扱い」等の上記の区分ごとにコードを付与する。
- 上記の区分に該当しない項目は「0」を付与する。

学習指導要領コードの「付加情報」の扱い

- 学習指導要領のコード（16桁）に加えて、資質・能力の3つの柱のどこに該当するか等の「付加情報」を追加して活用することも想定される。
- 一方、付加情報を追加する場合、どのような活用場面を想定して、何をどのように付加するか等の有識者や現場の意見も踏まえた十分な検討が必要である。
- G I G A スクール構想により学習履歴をデジタルでの蓄積が急速に進む中、可能な部分から教育データの標準化を進めるべきであり、今回は、機械的に付与できるコード本体の定義を早急に行ってデータの利活用を始めることとし、付加情報は今後の検討事項とする。
- 付加情報の在り方は、今後、調査研究等により検討することとする。

(学習指導要領コード付加情報のイメージ)

例1) : 資質・能力の3つの柱のどこに該当するか

8 2 6 0 2 6 3 XXXXXXXXXXXX 0 - X . . .
第1桁 第2桁 第3桁 第4桁 第5桁 第6桁 第7桁 第8桁~第15桁 第16桁

- 1:知識・技能
- 2:思考力・判断力・表現力等
- 3:学びに向かう力 人間性等

付加情報

例2) : ○○に関する教育

8 2 6 0 2 6 3 XXXXXXXXXXXX 0 - X . . .
第1桁 第2桁 第3桁 第4桁 第5桁 第6桁 第7桁 第8桁~第15桁 第16桁

- 1:環境に関する教育
- 2:金融に関する教育
- 3:法に関する教育

参考：文部科学省「新時代の学びを支える先端技術活用方策（最終まとめ）」令和元年6月

(ii) 具体のイメージ

学習指導要領のコードは、～略～。さらに個々のコードに付加情報（例えば、用途別（指導案・問題等）、難易度等）を追加するかについても検討を行う。